

江戸川大学 学報

edodai.jp

2024年6月

Vol.23 No.54

●主要日程

●主要行事

●人事

●諸報

学内行事 教育活動 研究活動

社会・地域との連携・交流活動

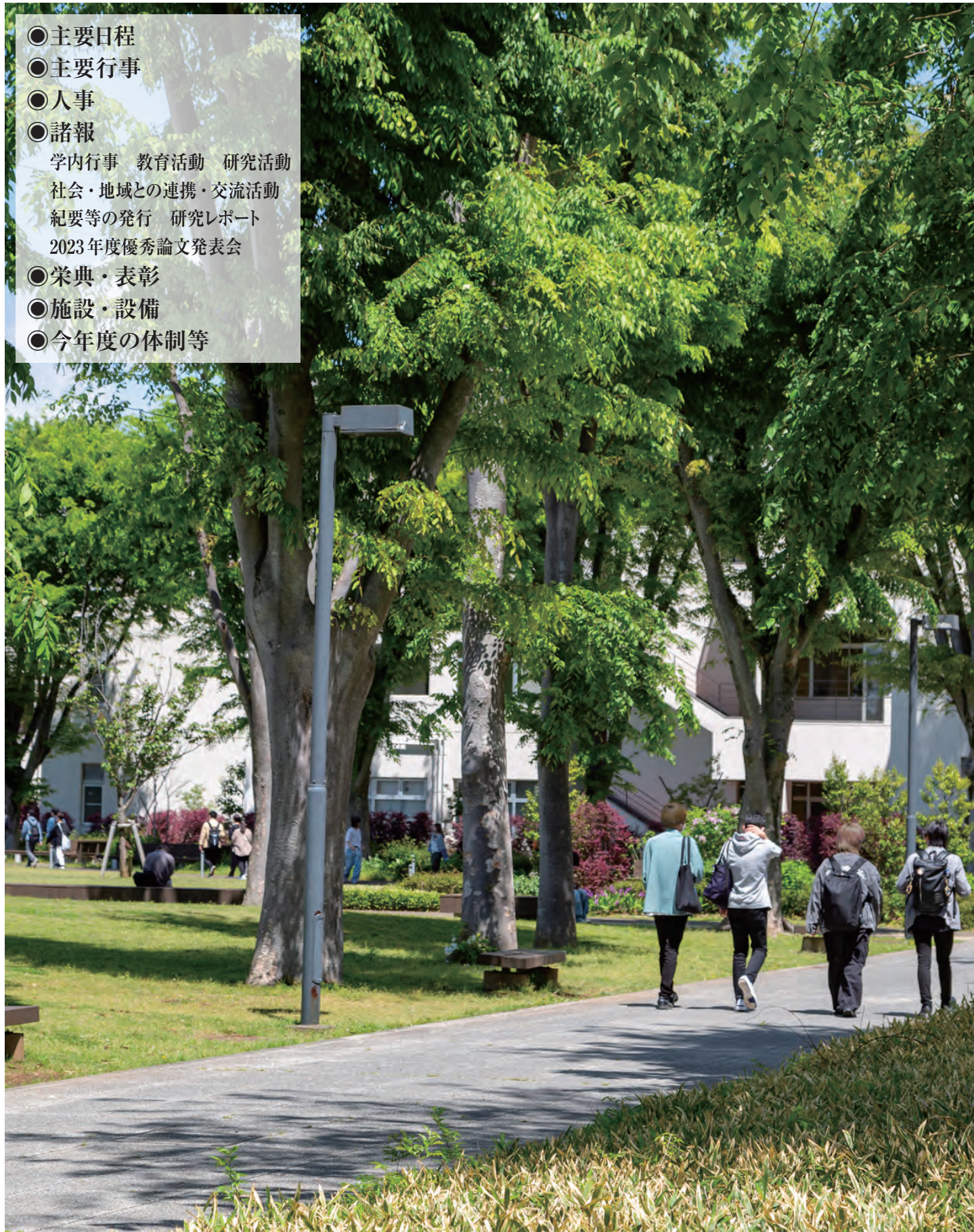
紀要等の発行 研究レポート

2023年度優秀論文発表会

●栄典・表彰

●施設・設備

●今年度の体制等



新緑の駒木キャンパス

主要日程

2024年度 江戸川大学 主要日程

4月

3(水)
入学式

4(木)～11(木)
ガイダンス

12(金)
前期通常授業開始

16(火)～19(金)
教科書販売日

17(水)
3年生
就職ガイダンス1

19(金)～25(木)
履修登録・確認

24(水)
3年生
就職ガイダンス2

29(月・祝)
(昭和の日)

30(火)
江戸川ウォーク

5月

1(水)
3年生
就職ガイダンス3

3(金・祝)
(憲法記念日)

4(土・祝)
(みどりの日)

5(日・祝)
(こどもの日)

6(月)
(こどもの日振替休日)
祝日授業実施

12(日)
オープンキャンパス

13(月)～14(火)
教科書販売日

15(水)
3年生
就職ガイダンス4

6月

3(月)～7(金)
履修取消期間

5(水)
3年生
就職ガイダンス5

9(日)
オープンキャンパス

7月

13(土)
オープンキャンパス

15(月・祝)
(海の日)
祝日授業実施

17(水)
3年生
就職ガイダンス6

23(火)
前期通常授業終了

24(水)～30(火)
前期定期試験

31(水)
前期集中講義

8月

1(木)～9(金)
前期集中講義

3(土)
オープンキャンパス

11(日・祝)
(山の日)
夏期休業開始

12(月)
(山の日振替休日)

13(火)～16(金)
事務局完全閉鎖

21(水)
前期追試験許可者発表

22(木)～23(金)
前期追試験

24(土)～25(日)
オープンキャンパス

26(月)
5月6日の祝日振替

27(火)
7月15日の祝日振替

9月

7(土)
オープンキャンパス

10(火)
夏期休業終了

10(火)～20(金)
後期集中講義

16(月・祝)
(敬老の日)

21(土)
入試相談会

22(日・祝)
(秋分の日)

23(月)
(秋分の日振替休日)

24(火)
後期通常授業開始

25(水)
9月卒業式
3年生
就職ガイダンス7

28(土)
総合型選抜選考開始

10月

1(火)～7(月)
追加履修登録・確認

14(月・祝)
(スポーツの日)
祝日授業実施

23(水)
3年生
就職ガイダンス8

26(土)
入試相談会

11月

1(金)
学園祭準備日
(授業なし)

2(土)
学園祭

3(日・祝)
(文化の日)
学園祭

4(月)
(文化の日の振替休日)
学園祭片付日
(授業なし)

5(火)
(創立記念日)

6(水)
10月14日の祝日振替

7(木)
11月3日の祝日振替

12(火)～18(月)
履修取消期間

16(土)
学校推薦型選抜1期

23(土・祝)
(勤労感謝の日)

27(水)
3年生
就職ガイダンス9

12月

7(土)
学校推薦型選抜2期
留学生入試1期

11(水)
3年生
就職ガイダンス10

12(木)
卒業論文提出日

23(月)
年内通常授業最終日

24(火)
11月4日の祝日振替

25(水)～27(金)
後期集中講義

29(日)～31(火)
事務局完全閉鎖

1月

1(水・祝)
(元旦)

1(水)～4(土)
事務局完全閉鎖

6(月)
通常授業開始

8(水)
3年生
就職ガイダンス11

13(月・祝)
(成人の日)

15(水)
3年生
就職ガイダンス12

18(土)～19(日)
大学入学共通テスト

20(月)
後期通常授業終了

21(火)～27(月)
後期定期試験

29(水)
優秀論文発表会

2月

5(水)
後期追試験許可者発表

6(木)～7(金)
一般選抜1期
後期追試験

11(火・祝)
(建国記念の日)

21(金)
一般選抜2期
留学生入試2期

23(日・祝)
(天皇誕生日)

24(月・祝)
(天皇誕生日振替休日)

3月

7(金)
卒業生発表
一般選抜3期

15(土)
卒業式

17(月)
卒業記念パーティ

20(木・祝)
(春分の日)

22(土)
オープンキャンパス



主要行事

第31回卒業式 卒業おめでとう!

令和6年3月15日(金)、第二体育館にて令和5年度卒業式が挙行され、5年ぶりに全学科の卒業生が一堂に会し、多くの保護者の方にも参列いただき、卒業を祝いました。また、E棟1階映像ホールに中継会場を設けました。

令和5年度卒業生は、社会学部人間心理学科105名、現代社会学科78名、経営社会学科136名、メディアコミュニケーション学部マス・コミュニケーション学科111名、情報文化学科77名、こどもコミュニケーション学科60名の計567名でした。

学年首席で学長賞に選ばれたのは、新井紗寧さん(経営社会)。総代は、各学科首席の関口怜さん(人間心理)、池田優衣風さん(現代社会)、石川妃菜さん(マスコミ)、根岸かほさん(情報文化)、金崎春香さん(こども)。成績・人物共に優秀で、各学科から優秀賞に選ばれたのは、木村汐里さん(人間心理)、榎本一輝さん(現代社会)、田村遥香さん(経営社会)、横田圭祐さん(マスコミ)、森裕樹さん(情報文化)、神立美穂さん(こども)。千葉県知事賞は遠山海斗さん(現代社会)。千葉県私立大学短期大学協会会長賞は大谷誠さん(人間心理)、全国保育士養成協議会会長賞は小島日和さん(こども)。スポーツや文化活動において著しい活動があった学生から選ばれる特別賞は、ジャキテエダオウダさん(経営社会)、角田琉河さん(情報文化)。留学生で優秀な成績を修めた学生から選ばれる留學生特別賞は、杜飞彤さん(現代社会)。強化指定部において著しい活動があった学生から選ばれる優秀アスリート賞は、梶山緋依さん(情報文化)。よく努力し、優秀な成績を修め、本学の名声を高めた学生から選ばれる記念品贈呈は、

長谷川美々さん(こども)でした。

答辞を担当した小穴晃生さん(情報文化)は、「私たちの大学生活は、同級生はアイコンと名前だけの存在で、実際の姿や声を知ることなく始まりました。慣れないオンライン授業では、先生への質問や学生同士の情報共有が難しく感じて授業についていくのが大変でした。私たちはオンライン授業の特性を生かして、育んできた繋がりと共に乗り越えて今日ここにいます。この経験と繋がりを胸に、これからの未来にどのような壁が立ち塞がるうとも乗り越えて歩み続けていきます」と語りました。

また、3月18日(月)にはロイヤルパークホテルにて卒業記念パーティーが開催され、卒業生と教職員で在学中の思い出話を語らう、楽しい場となりました。



第35回入学式 入学おめでとう!

令和6年4月3日(水)、第二体育館にて令和6年度入学式が挙行されました。式は対面で行われ全学科の入学式、保護者が集まりました。

一年次生は社会学部人間心理学科124名、現代社会学科88名、経営社会学科138名、メディアコミュニケーション学部マス・コミュニケーション学科115名、情報文化学科96名、こどもコミュニケーション学科55名の計616名、三年次編入生は社会学部現代社会学科1名、メディアコミュニケーション学科1名の入学が許可されました。

式後は、学生生活ガイダンスや先輩達による課外活動紹介等が行われ、入学生同士声を掛けあう等、新しい学生生活のスタートを切りました。



入学式後は課外活動紹介に参加しました

学長就任挨拶

第4代学長である小口彦太先生が任期満了で御退任され、4月より学長に就任いたしました。

大学を取り巻く環境は、18歳人口の激減期を間近に控え厳しさを増しており、その対応を見据えた大学運営が必須であると考えています。

本学の対応方策の第一は、新規の取り組みである「21世紀メディアパーソン育成プログラム」及び「アスリートネクストプログラム」について、これから4年をかけて実効性を上げていくことにあります。前者は学科の壁を越え、本学の強みを体現した学生の創出をめざした意欲的な取り組みです。後者は、大学スポーツをより力強くバックアップするための新たな組織作りをめざしています。

対応策の第二は、教育の質の向上です。当たり前の事を当たり前に実施する、絶え間ない改善の継続を図っていきます。教育の質といっても、当然多岐にわたるため、特に注力する12項目を明示し、それぞれの項目での目標達成が大学全体の教育の質の向上となるように構想しています。例えば、12項目の1つであり本学が開学以来取り組んできた「国際化の推進」では、①コロナ禍で落ち込んだ海外研修参加学生数を、コロナ以前のように100人以上の参加を目標とする、②留学

生数をコロナ前のように早期に64人体制とする、という具体的な目標を提示しています。

いずれの取り組みにおいても、質の向上を考える根底では、私の大学時代の恩師が実践された「学生たちの自尊心、人格、主体性（願いや希望）を尊重する」姿勢を忘れないことが大事であると思っています。

これから4年間、学生の最善の利益を第一に考えながら、教職員の皆さんと一緒に大学運営に取り組んでいきたいと思っています。



学長 宮崎 孝治

副学長就任挨拶

この度、副学長の大役を担うことになりました。副学長として最も大切な役割は、宮崎孝治学長を支えることです。江戸川学園、そして新学長が目指す学校作りのため、案を出し、汗をかいて動き回り、教職員や学生、保護者の方々との橋渡し役となっていきたいと決意しています。

思えば、私はさまざまな形でサポート役を経験してきました。

ニューヨーク・ヤンキースをはじめとした大リーグでは松井秀喜選手をサポートし、WBCや東京五輪などの世界大会で日本代表の裏方に徹しました。現在も、読売巨人軍のアドバイザーを担い、国技・大相撲を支えています。

それぞれの業界に独特のルールや風習はありますが、根本は変わりません。じっくり考え、周囲の人々と話し合い、たとえ立場や意見が違う人とも誠実に向き合うことです。そして何より実行力。こうと決めたら強い意思を持って実行する力が大切です。

副学長の任務も、同じように取り組んで参ります。学長の考えを理解し、大学にかかわる多くの方々と力を合わせて、大学のよき伝統を守りながら、思い切った改革に取り組むと考えています。

いま頭の中にある案件を具体化するのはいまからですが、ゆくゆくは屈指の進学校である系列の江戸川学園取手高校、江戸川女子高校の生徒たちが、進学を希望するような江戸川

大学に成長していきたいものです。

そのためには、大学内のすべてをバージョンアップしていく必要があります。研究の充実、教育の充実、施設の充実、そしてそれらを含むマネジメントの充実です。バスケットボール、サッカー、バレーボールなど運動部の活躍もめざましく、学生たちがさらに力を発揮できるような環境整備も大切でしょう。また、新たに硬式野球の創部も検討を始めています。

学生が充実した大学生活を送り、自信を持って社会に羽ばたいていけるよう全力でサポートしていく覚悟です。

皆様におかれましても、引き続き、江戸川学園、江戸川大学にご理解、ご支援をよろしくお願いいたします。



副学長 広岡 勲

人事

新任教員の紹介

2024年度、新たに本学の教職員としてお迎えした11名をご紹介します。



奥山 正樹
オウヤマ マサキ

社会学部
現代社会学科・教授

出身地：東京都
最終出身校：鹿児島大学大学院連合農学研究科修士、博士（農学）
前職：鹿児島大学特任教授環境省大臣官房付
主要担当科目：環境特論 / 人間環境学、国立公園論、自然遺産論

環境省の行政官として30年あまり国立公園管理や野生動物保護などの自然環境保全を担当してきました。霞が関での法律、計画の立案や現場の自然環境事務所等での勤務を経て、2020年からは鹿児島大学で地域環境学と産官学共創に関する教育研究に携わりました。地球社会の一員として未来を生きる学生たちには、将来どのような仕事につくとしても、自然や野生動物と正しくつきあう術を学び、フィールド体験に基づく自然観を身につけることが重要な糧になると思います。この分野からの江戸川大学の特色の発揮にも微力ながら貢献したいと考えております。教職員の皆様からのご指導のほど、何卒よろしくお願いたします。



山田 洋介
ヤマダ ヨウスケ

社会学部
経営社会学科・教授

出身地：埼玉県
最終出身校：早稲田大学大学院商学研究科ビジネス専攻修士
経営管理修士（専門職）
前職：大日本印刷 出版イノベーション事業部
主要担当科目：サービス産業論I、マーケティング特講 / サービスマーケティング論II

1991年に大日本印刷に入社し、30年近く、新規事業開発に従事してきました。2000年から2014年まで当時のiモードを活用したオンライン有料メディアビジネスを立ち上げ、社内ベンチャー制度を利用して起業し、子会社の経営に従事してきました。

今までの経験や事例を活用し、学生の皆さんに、自分の力で価値を生み出す楽しさや成長する喜びを感じてもらおうプログラムを提供したいと思っています。教員としてスタートしたばかりで、私が学ぶことばかりですが、私も皆様にご指導いただき、成長していきたいと考えています。よろしくお願いたします。



角田 陽一郎
カクタ ヨウイチロウ

メディアコミュニケーション学部
マス・コミュニケーション学科・教授

出身地：千葉県
最終出身校：東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻修士課程
前職：TBS テレビ
主要担当科目：バラエティ番組論、テレビ番組制作基礎、演習実習

1994年TBSテレビに入社。「さんのスーパーからくりTV」「中居正広の金曜日のスマたちへ」「EXILE魂」「オトナの!」など、数多くのバラエティ番組を担当。映画監督やネット動画配信会社の設立、音楽フェスティバルの開催、アプリの制作、舞台演出、その他多様なメディアプロデュースに携わる。2016年12月にTBS退社。現在は、テレビ番組のほか、youtube動画、小説『APアシスタントプロデューサー』出版、メディアブランディングなど、さまざまな革新的アイデアを基にビジネスを創造し続けております。Professor歴は初年、Producer歴は30年のテレビマンですが、学生、本学のために、少しでも自分の実績や人脈がお役に立てればと思います。よろしくお願いたします。



長峯 聖人
ナガミネ マサト

社会学部
人間心理学科・講師

出身地：茨城県
最終出身校：筑波大学大学院人間総合科学研究科心理学専攻修士、博士（心理学）
前職：東海学園大学心理学部心理学科、助教
主要担当科目：感情・人格心理学、社会心理学調査演習、心理調査概論

社会心理学を専門としており、その中でも情動・動機づけに関わる分野について研究しております。私が抱えるテーマは複数あるのですが、主には「混合感情」と呼ばれるポジティブな要素とネガティブな要素が混在した複雑な感情について、個人差や文化差の観点から検討しています。

前任校でも心理学科に所属し、心理学に興味を持つ学生を教えておりました。江戸川大学に通う学生の興味関心をまだ十分に把握しきれていないのですが、徐々に学生たちのニーズを知り、それらと自分の専門性を調和させた授業を展開していきたいと考えております。まだまだ未熟な点が多い身ですので、日々精進してまいります。今後ともよろしくお願いたします。



川崎 濃
カワサキ アツシ

社会学部
経営社会学科・講師

出身地：千葉県
最終出身校：大阪体育大学大学院スポーツ科学研究科スポーツ科学専攻修士課程修士
前職：一般社団法人東京ヴェルディクラブ、事務局長
東京ヴェルディ株式会社、取締役
主要担当科目：スポーツ産業論I・II、スポーツ経営論、スポーツビジネス概論

大学院卒業後から約20年、Jリーグ事務局と東京ヴェルディでスポンサーシップやマーケティング、大会・イベントの企画制作、マーチャンダイジング、経営改革など、様々な業務に従事しました。学生の皆さんにとって、大学生生活は未知の領域を学び、自分の可能性を広げるための貴重な時間だと思っています。これまでの実務経験から得られた多くの学びを、学生の皆さんに伝えることで、将来の仕事としてスポーツにも興味・関心を持ってもらいたいと考えています。教育に携わることは初めての経験ですが、自分の専門領域であるスポーツを通じて、他大人にはない独自の価値を創り、江戸川大学が多くの人から選ばれる大学になることに貢献したいと考えています。



中島 金太郎
ナカジマ キンタロウ

メディアコミュニケーション学部
こどもコミュニケーション学科・講師

出身地：静岡県
最終出身校：國學院大学大学院文学研究科史学専攻博士課程前期修了、博士（歴史学）
前職：長崎国際大学人間社会学部国際観光学科、講師
主要担当科目：博物館概論、生涯学習論I・II、博物館学実習I・II

専門は、博物館学と考古学で、前者は寺院に付属する博物館の所在確認、現況調査、全国集成を行っています。後者は、長崎県西海市に所在する南蛮貿易港「横瀬浦」を対象に、主に発掘調査の方法を用いながら、その実態解明を目指しています。

大学院時代に埋蔵文化財関係職、修了後に神奈川県教育委員会文化遺産課で非正規雇用として勤務し、その後國學院大学文学部助手、長崎国際大学国際観光学科講師を経て本学に入職しました。國學院大学時代から延べ11年間、学芸員養成課程を担当しています。これまでの指導経験、全国の博物館の訪問経験、および地域連携の経験を活かしつつ、理論と実践力を両立する学芸員の養成に邁進していきたいと考えております。よろしくお願いたします。



吉岡 三貴
ヨシオカ ミキ

メディアコミュニケーション学部
こどもコミュニケーション学科・講師

出身地：群馬県
最終出身校：お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科比較社会文化専攻博士後期課程単位取得退学、修士（人文学）
前職：お茶の水女子大学附属小学校、非常勤講師
江戸川大学メディアコミュニケーション学部こどもコミュニケーション学科、非常勤講師
主要担当科目：器楽表現の技術 A・B、幼児と表現、総合表現演習II

幼少期よりピアノを習い、学部では演奏学、大学院では音楽学を専攻しました。社会や文化から切り離された音楽は存在しないという考えのもと、人が関わりあう中で生み出される音楽、音楽を通じて育まれる関係性について興味を持っています。音楽教室でピアノ個人レッスンを行うと共に、小学校で約17年非常勤講師（音楽）として、また、本学でもこどもコミュニケーション学科立ち上げの際に非常勤講師として勤めてまいりました。小学生は勿論のこと、大学生の成長にも驚かされる日々です。こどもたちの豊かな表現を引き出せる保育者を育てるべく、学生と共に学びを深め、江戸川大学に貢献してまいり所存です。ご指導のほどよろしくお願申し上げます。



王 令薇
オウ レイ

メディアコミュニケーション学部
マス・コミュニケーション学科・助教

出身地：中国湖北省
最終出身校：京都大学大学院教育学研究科博士後期課程教育学専攻修士、博士（教育学）
前職：立命館大学文学部、授業担当講師
主要担当科目：メディア社会学、メディア学概論、マス・コミュニケーション論II

比較メディア史と社会学を専門にしており、大学院では、『中学生日記』という40年にわたりNHKで放送された、素人の中学生たちや彼らの平凡な日常を描き続けたテレビ番組に惹かれ、2023年博士課程修了まで研究してきました。現在、日本の中学生イベントや、地域放送局が制作したテレビドラマ、民衆運動の影響についてメディア論の視点から研究しております。また、非常勤講師として、桃山学院大学でマス・コミュニケーション論と社会学部の2年生向けの演習について、立命館大学でメディアと図書館という科目を教えてきました。こうした経験を踏まえ、江戸川大学では一層研究を深めるとともに、学問としてのメディア学の面白さを学生に伝えていきたいと考えております。ご指導のほどよろしくお願申し上げます。

新任職員の紹介



唐澤 翼
カラサワ ツバサ

事務局総務部企画総務課

出身地：千葉県

最終出身校：東京理科大学大学院理工学研究科電気工学専攻修了

私は今まで鉄道業界で11年、風力発電業界で3年業務に携わって来ました。鉄道業界では電車に電気を送るために必要な送電線の工事進捗管理、予算管理を主に行ってまいりました。風力発電業界では案件発注・工程進捗・安全管理を主に行ってまいりました。転職活動をしていくうちに江戸川大学とご縁があり、総務部企画総務課で働かせて頂くことになりました。全く異業種からの転職ですが、職場の上司・先輩の方々のフォローもありとても働きやすい職場で業務を楽しく進めております。今まで培った経験をどのように生かせるかはまだ手探りですが、日々色々なことに興味を持ち業務をいち早く覚え江戸川大学の発展に寄与したいと考えています。これからどうぞよろしくお願い致します。



谷口 貢哉
タニグチ コウヤ

事務局総務部企画総務課

出身地：石川県

最終出身校：法政大学法学部法律学科

大学では法学部に入学し、刑法・刑事訴訟法のゼミに所属しておりました。卒業後はSEや事務などの職を経験しながら、秋田県に住んでいたりと全国転々としておりました。

これまで様々な仕事を経験する中で、目の前の物事を鵜呑みにするのではなく色々な視点から考えて判断していくことの大切さを学んできました。

この度は江戸川大学にご縁があり4月より企画総務課として入職いたしました。これまでの経験を生かし1日でも早くこの江戸川大学に貢献できるよう努力していきたいと思っております。至らない点が多々あるかと思いますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



小谷田 有彩
コヤタ アリサ

事務局学務部学生課

出身地：千葉県

最終出身校：順天堂大学スポーツ健康科学部健康学科

小学5年生から大学4年生までの12年間にわたってソフトボールを続け、部活動中心の学生時代を過ごしたのち、大学卒業後は医療ヘルスケアおよび損保保険会社の営業職で法人向けの営業活動のほか健康経営の普及推進に関する取組み等を行ってまいりました。

この度ご縁があり4月より学生課業務に携わらせていただいております。入学式や江戸川ウォークへの参加、日々の窓口対応等で多くの教職員や学生の皆様と関わらせていただき、新しい学びを得て、充実した毎日を送っております。

これまでの経験を存分に生かし、未来を担う学生が学業・課外活動ともに充実した学生生活を過ごすことができるよう精一杯努めて参る所存です。至らぬ点も多々あるかと存じますが、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

新規役職者の紹介



社会学部長
中村 真 教授

社会学部は、人間の心と行動を科学的な視点で捉え、そのしくみを客観的事実に基づいて論理的に探究する人間心理学科、地域社会・資源・制度の視点から現代社会を捉え、フィールドワークを通して社会の多様な活動を体験的に学ぶ現代社会学科、実社会に結びついた知識とスキルの習得を重視し、新しい時代に即した経営理念やその基礎となる財務・会計、ビジネスなどを探究する経営社会学科の3学科で構成されています。各学科の特色を最大限生かしつつ、“広い教養に支えられた人間としての優しさや深さを大切に、専門的な知識に基づいて社会貢献したいと考える人材を育成すること”を基軸とする学部としての統一目標を達成すべく、社会学部に入学した学生たちが安心して勉学に励み、それぞれの目標に向かって充実した大学生活を全うできるように、3学科ならびに事務局関連部課と連携しながら教育・研究環境の整備と支援体制の向上に努めていく所存です。教職員の皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。



メディアコミュニケーション
学部長

八木 徹 教授

この度、メディアコミュニケーション学部長を拝命いたしました八木です。メディアコミュニケーション学部では、マス・コミュニケーション学科と情報文化学科のコラボレーションである21世紀メディアパーソン育成プログラムや、子どもコミュニケーション学科におけるスポーツを通じた地域活性化の取り組みなど、新しい試みがなされています。これまで培われてきた各学科の特性を大切にしつつ、このような独自の挑戦を続けていくことが重要と考えております。そのためにも学科間の連携を深める役割を担えたいと思っております。さらに、学部の活性化につながるよう貢献したいと考えております。皆様のお力添えを何卒よろしくお願い致します。



教務部長
林 香織 教授

本年度より、教務部長を拝命しました。着任以来、多くの年月を教務委員として過ごしてきました。思い返せば教務という仕事を一から教えてくださったのは、下平武治先生でした。4月のガイダンスで、教務が手をあげれば、そのしわ寄せは学生にいく、だからこそガイダンスは徹底的に準備をし、気を抜いてはいけない。厳しい教えの中には、必ず学生への愛や気遣いがありました。その思いは現学長の宮崎孝治先生に受け継がれ、私にバトンが回ってきました。大切な教えを守りつつ、時代に合わせたカリキュラムを構築していきたいと考えています。誠心誠意、職務を全うするつもりです。よろしくお願い致します。



広報室長
中島 健夫 教授

教員2年目にして広報室長を拝命することになりました。

前職(TV記者)では警察や行政さらにはプロ野球の球団まで「広報」担当者としての付き合いが多く、ジャーナリストとして時には「対峙」することもありました。それだけに、情報を取りに行く立場から発信を主とする広報活動の一翼を担うこととなり、改めて広報とは？と自分に問う日々が続いております。本学の魅力と正しい情報をさまざまなチャンネルを生かして広く世の中に伝えることで江戸川大学を目指す若者がさらに増えることにつなげたいと考えています。広報課の皆さんと手を携えて進めてまいります。広報活動への教職員の皆様のご協力をお願いする次第です。



経営社会学科長
小田原 由佳 教授

この度、経営社会学科長を拝命いたしました小田原です。経営社会学科では、入学者募集人員の定員増申請に向け、学科の魅力をより向上させるべく「企業経営・起業(アントレプレナー)コース」と「ゲームビジネスコース」といった新コース設置の準備を進めております。また、前学長からの引き継ぎ案件の一つであるアスリート学生の戦略的位置づけと活性化のためのプロジェクトに基づく学科再編にも同時に取り組んでおります。いずれも学部学科を超えた連携が必要になるため、経営社会学科の先生方をはじめ教職員の皆様に、多大なお力添えを賜ることになると存じます。精一杯努めさせていただきますので、ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

人事

新規役職者の紹介



マス・コミュニケーション
学科長
本多 悟 教授

マスコミ学科に入学する学生の意識が、コロナ禍を経て年々変化していることに気づきます。昨今の推し活ブームの影響もあってか、エンターテインメント志向の学生が大幅に増えており、芸能マネージャーやイベント、コンサート制作スタッフといった裏方志望者が目立つようになりました。その状況下で、学科が目指してきた学びを、学生たちにどのように落とし込んでいくのかという新しい課題が生まれています。簡単な解決法はありませんが、先々を見据えた長期的な視点と目の前の現実に向き合う短期的な視点を併せ持つこと。そして、学科の先生方と知恵を出し合うことによって対応していきたいと考えています。皆さまのお力添えを何卒よろしくお願いいたします。



IR 推進室長
土屋 薫 教授

この度、前担当の安田英土先生に代わり IR 推進室長を拝命いたしました。この IR 推進室は、求めに応じ、本学の学内組織と専任教職員に対して、教学に関する意思決定をサポートするための情報提供に向けたしくみづくりの組織と考えています。

具体的には、教育課程における学生支援や卒業生対応等、教育の質向上のため、単に学内データを組織的に収集・分析するだけでなく、各種施策の立案、実行・検証といった大学全体の PDCA サイクルの確立に資する流れを整備し、学修成果の可視化や学内業務の効率化につながる教育 DX 実現の一助となればと思っております。

建設的な議論を進めていく上でも、みなさまから忌憚なきご意見を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



入学センター長
神田 洋 教授

大学の土台をなす学生募集にセンター長という立場で携わることになり、身の引き締まる思いです。18歳人口の減少が進む中、本学が定員充足を続けているのは、ひとえに皆様の御尽力によるものです。前任の阿南透先生をはじめ、委員や入学課の方々がつくった流れを絶やさず加速させられるよう努めます。

学生募集に最も重要なのが教育の充実であることは当然ですが、オープンキャンパスや高校訪問など地道な活動の積み重ねが大きな効力を発揮するのも事実です。皆様に頼り、センターから各種のお願いを申し上げることもございます。これまで通り、御協力をいただければ幸いです。何卒よろしくお願いいたします。



教職課程センター長
高根沢 紀子 教授

この度、教職課程センター長を拝命いたしました。前センター長の宮崎孝治学長をはじめ、これまで教職課程を支えてこられた先生方の志を引きつぎ、教員という職業の魅力伝えていきたいと思っております。教職実習やコロナ禍で行っていなかった教材開発フィールドワークも復活させ、より充実した学びを提供していきたいと考えています。

また、現代の多様なニーズや問題に応えるべく、学生一人ひとりの個性をのばす教育をこころがけ、より質の高い成果を求めていきたいと思っております。そのためには教職課程センター所属の先生方をはじめ、教職員の方々の協力が不可欠です。今後も、よりいっそうのご理解、ご協力をお願いいたします。



地域連携センター長
大塚 良治 教授

本年度より地域連携センターをお預かりすることとなりました現代社会学科の大塚です。本学は教育研究活動の一環として、大学施設の開放や知的資源の提供、学生や教職員などの構成員の地域活動・社会活動などを通じて、広く社会・地域に貢献してきました。就任当初の業務として、まずは本学におけるこれまでの教育研究活動で培われた知識資源・人的資源などの教育研究資源の一層の活用を図るべく、検討を進める所存です。今後も社会・地域の発展の一端を担い、社会・地域・受験生・本学構成員などの本学のすべてのステークホルダーの皆様が必要とされる大学として、将来にわたって発展を続けられるよう尽力いたします。皆様のお力添えをお願い申し上げます。



国立公園研究所長
奥山 正樹 教授

今年度より国立公園研究所長を拝命いたしました奥山です。国立公園研究所は、2013年4月の設立以来10年間余にわたり、国立公園協会寄贈資料の公開のほか、国立公園研究・教育を行っている他大学、環境省や地方自治体、民間の機関や国立公園に携わるナチュラリストやインタプリターとの協力・連携のもと、日本をはじめ世界の国立公園に関する研究を進めております。また、国内外の国立公園を実習等で訪れる学生に対するサポートなど、環境学を中心とした本学の学びの充実にも引き続き努めてまいります。教職員の皆様の一層のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

退職者

【教員退職者（2024年3月31日付）】（11人）

江戸川大学	学長	小口 彦太
人間心理学科	准教授	薊 理津子
経営社会学科	教授	高野 直樹
経営社会学科	教授	中口 哲治
経営社会学科	教授	安田 英土

マス・コミュニケーション学科	教授	江間 直美
人間心理学科	特任教授	野田 満
経営社会学科	特任教授	金田 正明
情報文化学科	特任教授	海老澤 邦江
こどもコミュニケーション学科	特任教授	猶原 和子
睡眠研究所	助教	奥山 慎也

名誉教授称号の授与

今年度名誉教授を授与されたのは、小口彦太先生、中口哲治先生、海老澤邦江先生、金田正明先生、野田満先生、安田英土先生、浅川陽子先生、猶原和子先生、山路進先生の9名です。

名誉教授の称号は、江戸川大学の教授として退職した方で、本学に教授として10年以上勤務し、教育上又は学術上特に

功績があった方や、年数に達しないが、教育上又は学術上の功績が特に顕著であった方、本学の運営に関し功績が特に顕著であった方に授与するものです。また、2024年度はこどもコミュニケーション学科設立10年目を迎え、学科設立当初にご尽力いただいた先生方にも称号を授与しています。

学内行事

江戸川ウォーク

新入生同士や教職員と
親睦を深めた1日

4月30日(火)に第22回江戸川ウォークが実施されました。全学部・学科の新入生、教職員など合わせて約600名が参加しました。10時30分、東武アーバンパークライン川間駅近くの公園に集合し、開会式を行いました。小雨に見舞われましたが、宮崎孝治学長の挨拶と青木拓郎教授による準備体操が行われました。その後小雨も止み、過ごしやすい気候の中で、江戸川堤防のサイクリングロードを経由して清水公園までの約5キロの道のりを歩きました。

12時過ぎに清水公園のバーベキュー場に到着した後は、基礎ゼミナールごとに分かれてバーベキューを行いました。慣れている教職員からアドバイスを受けながら、肉や野菜を効率よく焼いていたゼミもあれば、慣れない手付きでも苦労しながら、協力して火をつけているゼミも見られました。共同作業を通して新入生同士や教職員との会話も弾み、にぎやかで楽しい、春の一日を満喫しました。



新年度ガイダンス

新年度が始まった4月1日(月)から4月11日(木)にかけて、貸与ノートパソコン講習会や学部ガイダンス、海外研修ガイダンス、学科別ガイダンス、資格科目ガイダンスなどの各種ガイダンスが行われました。ガイダンスの内容によって「対面」「オンライン」「オンデマンド」と実施形態を使い分けて行われました。

他学科の専門科目が履修可能であったり、就職課程や学芸員などの資格科目があったりと、科目履修の自由度が高く選択肢が多いのは江戸川大学の魅力の一つですが、これを生かした自分だけの履修プランを組み立てることは1年生にとっては容易ではありません。そこで、新年度ガイダンスでは、教務委員の先生や、基礎ゼミナール担当の先生、学生リーダーが新入生をフォローしています。

学科別1年生ガイダンスや履修相談室では、興味関心のある分野の学びを4年間で深めるために重要な履修登録(時間割作成)について、多くの時間を割いて丁寧に説明を行いました。



教育活動

佐藤秀樹准教授が「現代社会演習Ⅱ」に流山市国際交流協会会長を招き特別講義を実施

現代社会学科の佐藤秀樹准教授の「現代社会演習Ⅱ」では、1月11日（木）に特別講師として流山市国際交流協会から会長の小宮陽一氏と広報部長の小谷良美氏をお招きし、千葉県流山市における国際化や国際交流の取り組みについて学びました。

環境問題はグローバルに展開しているため、環境保全を進めていくには、世界の多様な文化的・社会的背景を理解することが重要です。今回の特別講義は受講学生にとって、大学のある流山市の国際化の現状やその具体的な取組みを把握する有意義な講演となりました。

この時の様子は、流山市国際交流協会の発行する『INFA NEWS』（第4号（S/N231号））に掲載されました。

マスコミ学科の学生が多様な

江戸川大学生を紹介する映像作品を制作

マス・コミュニケーション学科の森川俊生教授が担当する「マス・コミュニケーション演習・実習」では、「江戸川大学の多様な学生紹介」をテーマに、履修者全員が短編作品を制作しています。

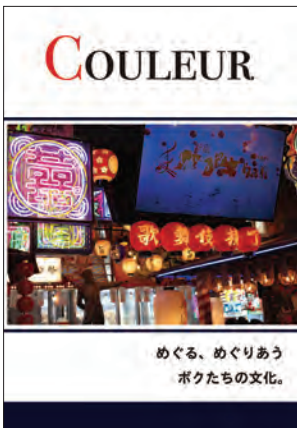
2023年度は「幸せを感じる瞬間」[大切にしている言葉]「マイ・ルーティン」の3項目について履修者全員がインタビューに答え、その映像を履修者全員で共有。動画内に出てくるキャッ

チコピー（「好きを個性に」「好みをこの身に」「Goodくる瞬間をいつも」）も学生たちがアイデアを出し合って決め、Adobe Premiere Proを使用して、各自がそれぞれのプランに沿って動画編集を行い30秒〜90秒程度の短編作品を完成させました。

本多悟ゼミがゼミ誌『COULEUR』を発行

マス・コミュニケーション学科の本多悟ゼミ生7名（新井瑠奈さん、小島大翔さん、近藤凛さん、志水大晟さん、鈴木言実さん、星野愛奈さん、間島知優さん）は、時代が変わっても形を変えて、新たな魅力を生み出している物や場所に着目し、『COULEUR』と題してゼミ誌を発行しました。

本多ゼミでは、出版コンテンツ制作の基本となる編集知識を習得し、分析・研究することで一生使える「編集力」を身に付けます。その研究成果として、企画、取材、撮影、レイアウト、執筆などすべての制作工程を学生が主体となり雑誌制作を行っています。



小久保利己ゼミ制作のショートフィルム作品紹介

マス・コミュニケーション学科の小久保利己ゼミでは、短編映画の制作に取り組んでいます。2023年度3年次のゼミ生は、『夢の中のあの子』と題した作品を制作。学生それぞれが、監督、脚本、撮影、録音、美術、編集などを担当しています。

学生がパーソナリティを務めるラジオ番組「江戸川タイムズ」の内容が「防災ニッポン」に掲載

江戸川大学マスコミ自主講座では、アナウンサーやリポーター、放送作家などをめざす学生を対象に「アナウンサー補講」を行っています。

その活動の一環として現役アナウンサーである日下純先生の指導のもと、自分たちで制作した番組を毎月第2水曜日15時から、東京葛飾区のコミュニティFM「かつしかFM」で『江戸川タイムズ』として生放送しています。

1月10日（水）の放送では、「令和6年能登半島地震 いま、私たちに求められる備えとは」と題し、読売新聞が運営するWebサイト『防災ニッポン』に掲載されていた記事「新聞紙とラップで作る腹巻」を「長期保存ができるチョコようかん」を紹介しました。この放送の記事は『防災ニッポン』のお知らせ欄に、放送を担当したマス・コミュニケーション学科の北見隼人さん（実

施時は2年生）のコメントと共に公開されました。

情報文化学科の学生が「TOKYO GLOBAL GATEWAY」で1日海外体験

情報文化学科の学生23名が、2月8日（木）に東京・お台場にある体験型英語学習施設「TOKYO GLOBAL GATEWAY」で1日海外体験に参加しました。

「TOKYO GLOBAL GATEWAY」では、ネイティブ講師と一緒に欧米での日常生活を想定した英会話を楽しむことができると同時に、英語圏や世界の文化を体験できます。本学では2022年から多くの学生が参加しており、今回はエアポートゾーンでの添乗員とのやりとりや、ニュース番組を英語で制作する体験をしました。



TOKYO GLOBAL GATEWAYにて

教育活動

情報文化学科が Jimmy A. Doi 教授を招き特別講義を実施

江戸川大学は、文部科学省が主導する「数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム」に参加し、学生の数理・データサイエンス・AIによる問題解決力を育成することに注力しています。

情報文化学科では、2月1日(木)にカリフォルニア州立工科大学サンルイスオビスポ校 Jimmy A. Doi 教授を招き、学生を対象に「データサイエンス入門」体験しながら学ぶ統計学」と題して特別講義を実施しました。また、特別講義終了後には、教員を対象に ChatGPT が米国の大学でどのように統計教育に使われてきたかに about「ChatGPT in Statistics Education: Examples from US Universities」というテーマで講演をいただき、講演後には学生・教員間で白熱したディスカッションが行われました。

Jimmy A. Doi 教授は、これまでに本学情報教育研究所が主催する研究会や、ワークショップなどで講演いただき、2024年度より情報教育研究所の客員教授として招聘しています。

子どもコミュニケーション学科が公務員保育士採用模擬試験を実施

子どもコミュニケーション学科では、公務員保育士試験対策として、学内で模試を実施しています。2024年度は4月30日(火)に行われ、59名の学生が模試にチャレンジしました。

公務員保育士の採用選考では、教養と専門の筆記試験がほぼ必須です。そこで、子どもコミュニケーション学科では、まずは模擬試験を受けてもらって対策をすすめるきっかけにしたい、という意図で学内模試を実施しています。このため、学科が模試受験料を補助し、学生は500円で受験が可能です。すでに対策を進めていて、実力を測るために受ける学生もいます。幼稚園教諭専門試験模試を追加で受けることもできます。

21世紀メディアパーソン育成プログラムのキックオフミーティングを開催

21世紀メディアパーソン育成プログラムのキックオフミーティングが4月10日(水)、総合情報図書館のラーニングコモンズスペース「ネコモンズ」で開催されました。

メディアコミュニケーション学部のマス・コミュニケーション学科と情報文化学科から選抜されたプログラム1期生となる2年生10人と、プログラムの立ち上げと運営に関わるマス・コミュニケーション学科の神田洋教授、林香織教授、新井正彦特任教授、情報文化学科の八木徹教授、山口敏和准教授が顔を合わせました。

林教授から「このメンバーで、マス・コミュニケーション学科と情報文化学科がコラボレーションして、楽しい・面白いことをやっていきましょう」と呼びか

けがあり、今後の活動にあたって必要となる留意点の共有を行いました。

参加学生の自己紹介では「もともとマスコミ学科か情報文化学科か入学時に迷っていたこともあって、このプログラムに興味を持った」といった声が複数あがっていました。



教員と学生で集まりました

鈴木秀生教授がFEA/JFAの「コーチエデュケーター養成プログラム」に参加

経営社会学科の鈴木秀生教授が「FEA/JFA Coach Educators' Development Pathway Programme 2023」に参加しました。

このプログラムは、FEA(国際サッカー連盟)が各国加盟協会に提供するプログラムの一つで、指導者を指導する「コーチエデュケーター」の育成を目的としてFEAとJFA(日本サッカー協会)が協働して実施したものです。2023年4月に開講し、8か月にわたりオンライン、オンライン講義、オンサイトで

の集合研修、現場でのメンタリングなどが行われました。各地域から選ばれた18人がプログラムを終了し、12月14日(木)に閉講式が行われました。

プログラムを終えた鈴木教授は「日本サッカーの『ありたき姿』を目指して、指導者養成や選手育成に尽力していきたいと思います」と今後の抱負を述べています。



情報教育研究所が『冬の情報教育研究会』をオンライン開催

江戸川大学情報教育研究所が1月12日(金)に「冬の情報教育研究会」を開催しました。「探究活動やキャリア教育の改善を図るカリキュラム・教材開発」というテーマで、教職課程で学ぶ学部生・大学院生及び指導教員、江戸川大学情報教育研究所メンバーが研究発表を行いました。参加者間で深いディスカッションが行われ、総合的な探究やキャリア教育を指導する上での新たな知見が見出されました。

情報教育研究所教員が

ハワイ国際教育会議で研究発表

情報教育研究所の玉田和恵所長(江

研究活動

戸川大学教授)、松田稔樹客員教授(東京工業大学教授)、神部順子客員研究員(高松大学教授)が、1月2日(火)から7日(日)にアメリカ・ハワイで開催されたハワイ国際教育会議(Hawaii International Conference on Education)でデータサイエンスを含めたICT問題解決力の育成・高等学校共通教科「情報I」での探究活動・ゲーミング教材の開発に関する研究発表を行い、江戸川大学における問題解決型学習(PBL:Project Based Learning)に関する指導法・カリキュラム・教材開発の手法が国際的に紹介されました。

守屋志保教授がリトアニアのバスケットボールコーチ養成プログラムを視察

2月8日(木)から11日(日)まで、こどもコミュニケーション学科の守屋志保教授がリトアニアのバスケットボールコーチ養成プログラムを視察しました。

この視察プログラムは、元日本バスケットボール協会理事である在リトアニア日本国大使館尾崎哲特命全権大使の働きかけにより、リトアニアスポーツ大学が手配してくれたものです。リトアニアはバスケットボールが宗教であると言われるほど競技が盛んで、オリンピックなどの国際大会でも数々の輝かしい成績を残しています。リトアニアスポーツ大学は、リトアニア代表の多くの選手、コーチを輩出している大学で、バスケットボール学部があり、バスケットに関連

する全てのプログラムが揃っています。日本バスケットボール協会の理事でもある守屋教授は、尾崎大使、日本大使館専門調査員の広川太郎氏、リトアニアスポーツ大学の副学長のブタウタス教授をはじめとした研究者らとともに、日本とリトアニアのバスケットボールコーチング研究分野での国際的な学术交流や共同プロジェクトの実施可能性について議論しました。



人間心理学科研究生・阿部雄大さんの論文が『心理学研究』に掲載

江戸川大学では、本学卒業後も特定の専門事項の研究を希望する卒業生に対し、書類等選考の上、研究生として在籍を許可しています。

阿部雄大さんは社会学部人間心理学科を2021年3月に卒業後、西村律子准教授指導のもと作成した卒業研究

の内容をさらに深く解析するため、研究生として在籍していました。

その研究の成果をまとめた論文が、日本心理学会発刊の査読付き学術雑誌『心理学研究』への掲載が決定し、先行して3月15日(金)にWeb公開されました。(紙媒体では第95巻第4号(2024年10月)に掲載予定)

本論文は、ガム咀嚼が選択的注意機能に与える影響を検討している先行研究を対象とし、先行研究が明らかにしているデータを、メタ解析したものです。なお、阿部さんは2024年4月から駒澤大学大学院人文科学研究科心理学専攻へ進学し、さらに研究を深めていく予定です。

国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の採択事業「さくら招へいプログラム」の成果報告会を実施

江戸川大学では、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)のさくら招へいプログラムに採択され、2024年2月14日(水)から2月23日(金)までの10日間、南京大学の学部生2名と大学院生6名、教員2名を招へいし、現代社会学科・川瀬由高准教授の引率でフィールドワーク実習を行いました。

2月22日(木)には、江戸川大学にて調査成果報告会を開催しました。

南京大学の学生たちは、流山市および京都市の2地点での調査成果をもとに、人間と森林との関わりや移住・移動と暮らしについて、そして中国の視点からみた

日本の社会文化の特徴について、力こもった発表を行いました。現代社会学科・中島慶二特任教授、土屋薫教授からのコメントや質疑応答を通して、里山という思想の位置づけと今後の課題について議論を深めることができました。

川瀬由高准教授が分担執筆した『中国民族誌学：100年の軌跡と展望』が出版

現代社会学科の川瀬由高准教授が分担執筆した『中国民族誌学：100年の軌跡と展望』が3月20日(水)に風響社より出版されました。

本書は、国立民族学博物館共同研究「社会文化人類学における中国研究の理論的定位置——12のテーマをめぐる再検討と再評価」(研究代表者：河合洋尚、2019年度～2022年度)の成果論集であり、広義の中国地域に関する文化人類学の研究史を、20のテーマで纏めた論文集です。

川瀬教授は、第5章「コミュニティ——ホリズムの実験と非集団論的転回」を担当し、中国漢人研究における非集団論の展開に着目し、これまでの研究の流れと今後の展望を纏めています。



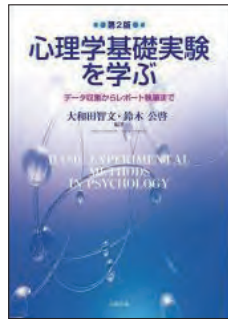
社会・地域との連携・交流活動

大和田智文教授が編集・執筆した『心理学基礎実験を学ぶ』データ収集からレポート執筆まで(第2版)が出版

人間心理学科の大和田智文教授が編集・執筆した『心理学基礎実験を学ぶ』データ収集からレポート執筆まで(第2版)が出版されました。

本書は2016年に発行された書籍の第2版で、初学者向けに心理学基礎実験で何を学んだら良いかを具体的にわかりやすく示したテキストです。豊富なWeb資料を用意しQRコードから閲覧できるようにするなど、よりわかりやすく使しやすいものに改訂されています。

大和田教授は、東京未来大学の鈴木公啓准教授とともに本書を編集し、第1章と第14章の執筆も担当しています。



佐藤秀樹准教授が市川市ユネスコ協会主催の市民公開講座でSDGsについて講演

現代社会学科の佐藤秀樹准教授が3月2日(土)に、千葉県市川市の全日警ホールにて市川市ユネスコ協会が主催する「第17回ユネスコ市民公開講座」でSDGsに関する講演を行いました。

テーマは「環境教育を通じたSDGsの目標達成に向けて…開発途上地域(バ

ングラデシュ)を中心に」で、SDGs目標達成の現状や環境問題の解決へ向けた環境教育の必要性について、自身のバングラデシュでの環境保全活動の取り組みを交えて解説しました。

佐藤准教授は講演で、SDGsの目標達成に向け、「組織、異業種や地域間の多様な主体による連携・協働」、「社会的弱者や異なる世代間をつなぐ社会参画」や「地域住民の学びの場の創出」等の重要性について強調しています。

石橋美香子講師らの論文が『Developmental Science』誌に掲載

大阪大学大学院人間科学研究科の萩原広道助教、江戸川大学社会学部人間心理学科の石橋美香子講師、京都大学大学院文学研究科の森口佑介准教授、東京大学大学院教育学研究科の新屋裕太特任助教らの研究グループは、幼児に特有の行動である「スケールエラー」が、発達などの時期にどのくらい生起するかを、大規模データを用いて世界で初めて明らかにしました。

さらに、スケールエラーとの関連が指摘されていた言語発達について、動詞や形容詞の習得が特にスケールエラーの生起と密接に関わっている可能性を発見しました。

本研究成果は、3月29日(金)14時(日本時間)に、発達科学誌『Developmental Science』(オンライン版)に掲載されました。

流山グリーンフェスティバルの企画・運営に本学学生が参加

5月4日(木・祝)「みどりの日」に、流山おおたかの森駅(千葉県流山市)の南口都市広場にて、千葉県流山市の花と緑の祭典『流山グリーンフェスティバル2024』が開催されました。「グリーンフェスティバル実行委員会」の委員長を務めたのは現代社会学科の土屋薫教授です。17回目となった今回も学部の垣根を越えて、多くの学生が運営に協力しました。

今年も情報文化学科の廣田有里ゼミが花絵のデザインを担当しました。デザインタイトルの「発展途上流星群」です。人が秘める個性を星として表現し、今年のテーマ「colorful」から、個性達が交わっていく様子を複数のカラフルな流れ星として描くことにより、「人が持つ個性を受け入れる多様性」が表現されています。また、「個性達が交わっていくこと」で、流山市の発展を願うというメッセージが込められています。

実際の会場での花絵制作には、現代社会学科の土屋薫ゼミも参加しました。おおたかの森南1丁目自治会を中心とする地域のボランティアの方々や協力し、20種類以上3000個あまりの花と野菜の苗を並べて作り上げた5.4m四方の巨大花絵は、会場を華やかに彩りました。

学生団体の学生広告代理店「エド・アド」(社長:小林彩葉さん、顧問:井

上一郎教授)は、駅南口の階段にステップアートを制作し、そのデザインをもとにした小学生対象の間違ひ探しゲームも実施しました。

現代社会学科のブースでは、これまでにいったフィールドワーク(野外調査・研究)について展示・紹介し、廣田ゼミとコラボして作った缶バッジを来場者へ配布しました。午後には、花絵に使われた花苗の鉢が販売され、学生たちは地域の方々と一緒に解体・販売作業や、会場の片付けを手伝いました。

当日は、好天に恵まれ、江戸川大学の学生たちの協力の下、大盛況となりました。また、その様子をまとめた動画やグリーンフェスティバル開催前の宣伝動画は廣田有里ゼミが担当しています。当日の様子をまとめた動画は、流山おおたかの森駅の大型デジタルサインで配信されました。



エド・アドが制作したステップアート

紀要等の発行

情報教育研究所が小学校で三味線音楽プログラミングの授業実践

江戸川大学情報教育研究所は京都府京都市より研究助成を受け、公益財団法人京都市芸術文化協会（伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス）と協働して、伝統芸能文化復元・活性化共同プログラム「三味線音楽 Scratch 教材開発」を実施しています。

この実践は、日本の古典芸能を児童生徒に普及するために、「GIGA スクール構想」によって配布されたICT端末を活用して、三味線音楽とプログラミングを融合した教材及び授業実践プログラムを開発することを目的としています。

情報教育研究所の玉田和恵所長、松尾由美講師、重藤暁客員研究員（三味線奏者名・常磐津佐知太夫）は、開発したプログラムを使用し、3月4日（月）に江戸川学園取手小学校の4年生全員を対象に、「三味線音楽 Scratch 教材」による授業を行いました。

常磐津佐知太夫氏が岸澤満佐志氏とともに邦楽演奏を実演した後、児童は「三味線音楽 Scratch 教材」を活用して常磐津の音楽を体験し、課題曲「式三番叟」を吟じました。初めて体験する三味線音楽によるプログラミング教材に夢中で取り組んだ児童からは、「非常に楽しかった」「これからも三味線音楽をやってみよう」と古典芸能に対して親近感を覚えた感想が寄せられました。

男女バスケットボール部が流山市の中学生を対象にバスケットボールクリニックを開催

2月23日（金・祝）に男女バスケットボール部が、地元・流山市内の中学生を対象にEU Basketball Academy（江戸川大学バスケットボールクリニック）を初開催しました。

まず、男女バスケットボール部の部員とスタッフがバスケットボールの練習法を実践しながら学ぶ90分間のクリニックを第二体育館で実施。その後、会場をメモリアルホール教室に移し、江戸川大学睡眠研究所の協力で睡眠と脳に関する30分のミニ講義を行いました。8時30分からの第1部は常盤松中学校、西初石中学校、東部中学校から、11時からの第2部は北部中学校、おたかの森中学校、南流山中学校から、13時30分からの第3部は南部中学校、八木中学校、おおぐろの森中学校から、合計270名の中学生に参加していただきました。



江戸川大学紀要 第34号



3月15日に「江戸川大学紀要第34号」が発刊されました。今号には34本の論文・原稿が掲載されています。

2学部6学科という多彩な研究分野を有する本学の特徴がよく出ており、多様な研究領域の水準の高い研究成果を築くことができます。

こどもコミュニケーション研究紀要 第4号



2024年3月20日に、こどもコミュニケーション研究紀要「こどもコミュニケーション研究」が発刊されました。4本の論文と1本の研究ノート、さらにこどもコミュニケーション研究所における2022年度から2023年度にかけての事業報告が掲載されています。

今号の特徴として、地域社会でのフィールドワークや学生に対する調査といった実証的な研究論文で構成されている点が挙げられます。福祉やスポーツ科学、音楽学、心理学、保育学と多様な領域から、共通のテーマである「子ども」へ容ととなっています。

江戸川大学国立公園研究所年次報告 NP FORUM 第8号



国立公園研究所の年次活動報告書として、研究所スタッフによる国内外の国立公園等に関する論文、研究報告、雑誌掲載記事等を掲載しています。

2023年3月に実施した、「どうする！アカミミガメ！アメリカザリガニ！」など、法律改正によって新たな規制が始まった両種の取扱いについてわかりやすく広報するため、WOWキッネザルさんをMCにお呼びしたオンライントーク内容も掲載されています。

図書館報エウレカ 第51号



新型コロナウイルスも5類に移行し、様々な制限が解除されました。本学の図書館においても学外者の利用を再開し、図書館カウンター等の飛沫防止ビニールカーテンも撤去。コロナ禍前の運営体制に戻りました。

今号では2023年度より就任された杉山敏啓図書館長のご挨拶や教員の著作物の紹介、多読賞8年間の総括や図書館スタッフからのおすすめの本などお役立ち情報を掲載しています。

研究課題

「文系大学生を対象とした数学的モデリング能力育成に向けたデータサイエンス教育」

（2024年度学術研究助成基金助成金 基盤研究（C）に採択）

メディアコミュニケーション学部
情報文化学科
松尾由美 講師



科学研究費補助金（学術研究助成基金助成金）が交付された研究を紹介します。

目指すべき未来の社会として、「サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会」である Society5.0 が提唱されています。Society5.0 を実現するためには、サイバー空間の膨大なデータを解析し、問題解決や価値創出ができる人材が必要不可欠です。政府の「AI戦略 2019」において、「文理を問わず、全ての大学・高専生（約50万人卒／年）が、課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得」することが具体目標に設定されました。つまり、将来データサイエンス・AIの専門家にはならないであろう、文系の大学生に対してもデータサイエンス教育を実施することが求められています。

このような文系の大学生に対してどのようなデータサイエンス教育をすればよいのでしょうか。松田（2021）は、文系大学生に対するデータサイエンス教育を含む教養教育では、専門家から提案された政策や製品・サービス

を評価し、改善策の検討を求められる力を育成すべきとしています。提案された政策やサービスを評価するには、現実世界の現象を数学的な表現に変換する力が不可欠だと考えられます。そこで本研究では、文系大学生を対象にした、データサイエンス教育を通じて、現実の問題をデータ分析に結びつく数学的な表現に変換してモデルを構築する数学的モデリング能力を育成する教材の開発を目指すこととしました。

これまでの先行研究では、数学的モデリングを行う際、現実世界の事象を数学的問題に定式化する段階が難しく、一般化・特殊化等の数学的な見方・考え方の活用の失敗がその原因だと指摘されています。そこで、本研究では、数学的モデリングに必要な見方・考え方を育成した上で、定式化を①現実の事象を分析可能な変数に変換・選択し“what question”に答えるモデルを構築する段階と②変数間の関係を生成・選択し、“why question”に答えるモデルを構築する段階の2つに分け、各段階

で数学的モデリング能力を育成する教材を開発・評価します。開発した教材は江戸川大学のデータサイエンス関連の授業でも活用し、江戸川大学の学生への教育に資するものにしていきたいと考えています。

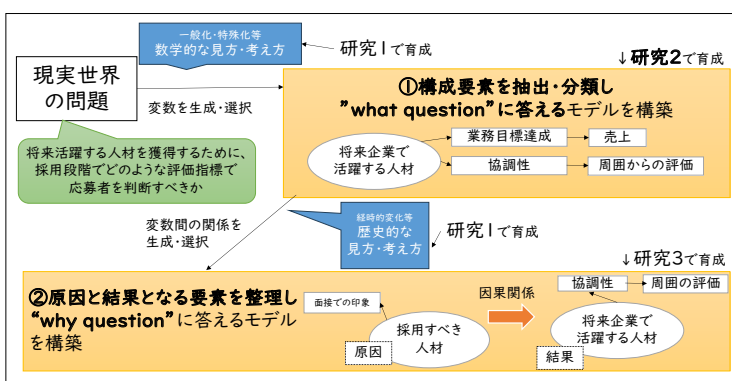


図 研究の全体像(開発する教材・指導法のイメージ)

各学科による優秀論文・卒業論文発表会が1月31日（水）に対面もしくはリアルタイム配信・オンデマンド配信で実施されました。当日は3年生以下の学生も参加し、4年生の発表に耳を傾けていました。ここでは、最優秀論文として選考された卒業論文もしくは学科の代表として選ばれた卒業論文を紹介します。

社会学部

人間心理学科

「イスラム教徒におけるラマダン前後での睡眠の変化：系統的レビュー」

長戸夏美さん（山本隆一郎ゼミ）

本研究では、イスラム教徒を対象としてラマダン（断食を行って自制心や忍耐力を養い、信仰心をより強くする宗教行事期間）前後で睡眠を評価した調査研究を抽出し、アスリートや特定の疾患の患者に局限された研究を除外した上で、メタ分析による統合を行いました。その結果、「ラマダン前後で睡眠時間、日中の眠気、睡眠の質に統計学的に意味のある違いは見出されません」でした。この研究成果は、ラマダンという宗教行事とイスラム教徒の睡眠健康との関連を理解する上で新たな資料を提供するものであると考えられます。

現代社会学科

「グラフィティの境界性

——千葉県木更津市の「おっさんシール」にみる

芸術と違法の二項対立——

遠山海斗さん（川瀬由高ゼミ）

千葉県木更津市に存在している正体不明のステッカー「おっさんシール」が生み出された背景について、グラフィティ文化の文脈に位置づけながら考察することを目的とした論文です。グラフィティの境界性や社会への影響、芸術の評価に焦点を当て、木更津市のグラフィティデータを通じて「おっさんシール」が地域社会へ及ぼす影響と芸術の評価について詳細に分析し、アートとしての位置づけと地域文化への関与について検討し論じました。

経営社会学科

「インボイス制度導入の対策と今後の課題」

成合祐翔さん（小田原由佳ゼミ）

2023年10月1日からインボイス制度が開始されました。インボイス制度は、取引の正しい消費税額と消費税を把握するための制度であり、消費税の軽減税率が導入される消費税率が2種類になったことによる不正や計算ミス防止し、正しい消費税の納税額を計算することを目的としています。本論文は、このインボイス制度の導入が実務界に与える影響について考察を深めようとしたものです。インボイス制度の概要について先行研究を十分調査し、インボイス制度導入の背景および目的についての理解を深めました。インボイス制度導入の影響についても免税事業者および課税事業者の両方の視点から明らかにすることで課題を抽出し、今後の対策につ

いて筆者の見解を論理的に展開しています。

メディアコミュニケーション学部

マス・コミュニケーション学科

「現行里親制度の普及拡大は、本当に里親里子を幸せにするか」

小松鈴音さん（隈本邦彦ゼミ）

日本の里親制度の普及率が他の欧米先進国に比べて低いことから、国は、メディア企業等とともに有名人を使ったCMなどを展開し強力で普及活動を進めています。しかしそうした現行の里親制度を、そのまま普及拡大していくことは、里親里子にとって本当の幸せにつながるのかという点をこの論文で検証しています。その結果、児童相談所、乳児院の現場の担当者への聞き取り調査と、里親経験者のインタビューから、里子の養育には特有の困難を伴う場合があり、それに対して現状行われている事前研修や、里親になってからの支援体制には不十分な点があること、またメディアを通じた宣伝・広報では、そうしたリスクについてはほとんど伝えられていないことがわかりました。そこで本論文では、今後の改善策として、里親希望者に事前にリスクを正しく伝えることと支援相談体制の充実が必要であると指摘しています。

情報文化学科

「画像分類AIを簡便に実行するためのPythonモジュールの開発と授業モデルの検討」

根岸かほさん（八木徹ゼミ）

本研究では、AIフレームワークの1つであるTensorFlowを利用する際に、その複雑さを隠蔽し、AIを利用したPythonプログラムを簡単に作成することのできるモジュールを開発しました。TensorFlow Hubの学習済みモデルを利用した画像分類のほか、Teachable Machineで構築したオリジナルモデルを利用することもできます。本研究で開発したモジュールを活用することで、コード量を大幅に減らし、複雑なデータ構造を直接扱わずにコーディングでき、Pygame Zeroの利用を想定して初学者が楽しみながらプログラミングできる構成としています。

子どもコミュニケーション学科

「家族関係が子どもの性格形成に及ぼす影響

——大学生へのアンケート調査からの考察——

榎本唯さん（旭彩希ゼミ）

「家族関係」という複合的な視点から、子どもの性格形成に及ぼす影響について明らかにした論文です。きょうだい位置、異性きょうだいの有無、親の養育態度、両親からの呼ばれ方、両親との会話量、家族の雰囲気などの要素と性格についてアンケート調査を実施し、先行研究との比較分析を行いました。得られた結果のなかでも、特に興味深い点は、父親との会話量・コミュニケーションの有無が性格形成に大きな影響を与えているということです。

栄典・表彰

外部表彰

情報文化学科の学生が「令和5年度東京都 SNS トラブル防止動画コンテスト」で受賞

東京都が主催する「令和5年度東京都 SNS トラブル防止動画コンテスト」の静止画部門で、メディアコミュニケーション学部情報文化学科の山岸咲陽さん（受賞当時は1年生）が優秀賞を、同じく情報文化学科の寺本美咲さん（受賞当時は1年生）が審査委員特別賞を受賞しました。

このコンテストは、東京都生活文化スポーツ局都民安全推進部が近年問題となっている SNS 利用によるトラブルや自撮り被害などから青少年を守るための啓発活動として開催しています。受賞作品は同コンテストの公式 Web サイトで公開されたとともに、東京都庁第一本庁舎1階アートワーク台座等にて掲示されました。



現代社会学科の学生が民俗学・歴史学・考古学の論文コンテスト「櫻井徳太郎賞」一般の部で奨励賞を受賞

社会学部現代社会学科の遠山海斗さん（受賞当時は4年生）が第22回櫻井徳太郎賞一般の部で奨励賞を受賞しました。一般の部での受賞は1編のみに限られ、大賞（賞金30万円）または奨励賞（賞金20万円）のどちらかになります。「該当なし」となる年もある厳しい審査基準を超えた見事な受賞となりました。

櫻井徳太郎賞は、民俗学・歴史学・考古学を通じ、地域を基盤にした学問の発展・発達と、地域を活かす立場から研究を進める人材の育成を図るとともに、次代を担う青少年の地域研究の奨励と、郷土愛を育むことを目的とし、平成14年度に創設されました。

奨励賞を受賞した遠山さんの論文は社会学部現代社会学科の2023年度優秀論文にも選ばれています。（p15参照）



情報文化学科の学生に東京都都民安全推進部から感謝状

東京都生活文化スポーツ局都民安全推進部では、中高生に適切なネット利用等の知識を習得・定着させるための講演会を実施しています。また、生徒自身が当事者意識を持ち、問題を理解し、身を守るために、生徒同士によるグループワークも行っています。

メディアコミュニケーション学部情報文化学科の学生が、このグループワークを促進するファシリテーター（ボランティア）として参加し、都内の各校で中高生の話し合いの活性化に貢献しています。この活動が東京都から高く評価され、4月27日（木）に、江戸川大学学内で感謝状贈呈式が行われました。情報文化学科の飯田駿太さん（4年生）、池田航一さん（4年生）、池端歩さん（4年生）、柏結斗さん（4年生）、竹園朋弘さん（4年生）、小林美月さん（3年生）、櫻田菜久さん（3年生）、大野瑛都さん（2年生）、栗原英希さん（2年生）、土屋龍靖さん（2年生）、光増花凜さん（2年生）、山口凌央さん（2年生）に感謝状が贈呈されました。



2023年度資格取得支援制度の利用者数

資格名称	人数
実用英語技能検定（英検）2級	6
実用英語技能検定（英検）準2級	6
TOEIC800点以上	1
TOEIC700点以上	2
TOEIC600点以上	3
TOEIC500点以上	4
TOEIC400点以上	5
基本情報技術者試験	3
情報セキュリティマネジメント試験	3
ITパスポート試験	13
Microsoft Office Specialist（MOS）	121
Webデザイナー検定 ベーシック	1
マルチメディア検定 ベーシック	48

資格名称	人数
CGクリエイター検定 ベーシック	1
ウェブデザイン技能検定 3級	1
日本漢字能力検定（漢検）2級	9
日本語検定 2級	1
簿記検定試験（日商）2級	1
簿記検定試験（日商）3級	7
ビジネス会計検定 2級	2
ビジネス会計検定 3級	3
ファイナンシャル・プランニング技能検定（FP）2級	1
ファイナンシャル・プランニング技能検定（FP）3級	11
宅地建物取引士	3
秘書検定 2級	3
秘書検定 3級	39

資格名称	人数
ファッションビジネス能力検定 3級	7
イベント検定	11
PRプランナー補	1
日本語能力検定 N1（留学生対象）	2
心理学検定 2級	1
睡眠改善インストラクター	8
ニュース時事能力検定 2級	3
ニュース時事能力検定 準2級	5
ニュース時事能力検定 3級	3
世界遺産検定 2級	1
世界遺産検定 3級	6
合計	346

施設・設備

D棟1階にファミリーマートがオープン

4月よりD棟1階にファミリーマートがオープンしました。営業時間は平日8時～18時となっております。おなじみのホットスナック「ファミチキ」や、日用品の販売はもちろん、公共料金の支払いも可能です。ゆうちょ銀行のATMとマルチコピー機も設置されており、学生生活の利便性が格段に向上しました。



E棟・D棟学生ホールをリニューアル

春休み期間の2月末から3月初頭にかけて、E棟学生ホールを学生にとって居心地の良い空間にリニューアルしました。このリニューアルは、江戸川大学学友会の意見を取り入れて実施しました。

学生のさまざまなニーズに応えられるように、少人数で使えるテーブルが並ぶエリア、ゆったりとした1人掛けチェアが並ぶエリア、ひとりで過ごせる壁際のコー

ナーのほか、4人掛けソファが配置されました。

なお、このリニューアルに併せて、D棟記念学生ホールにも新しい机や椅子が導入されました。



E棟学生ホール

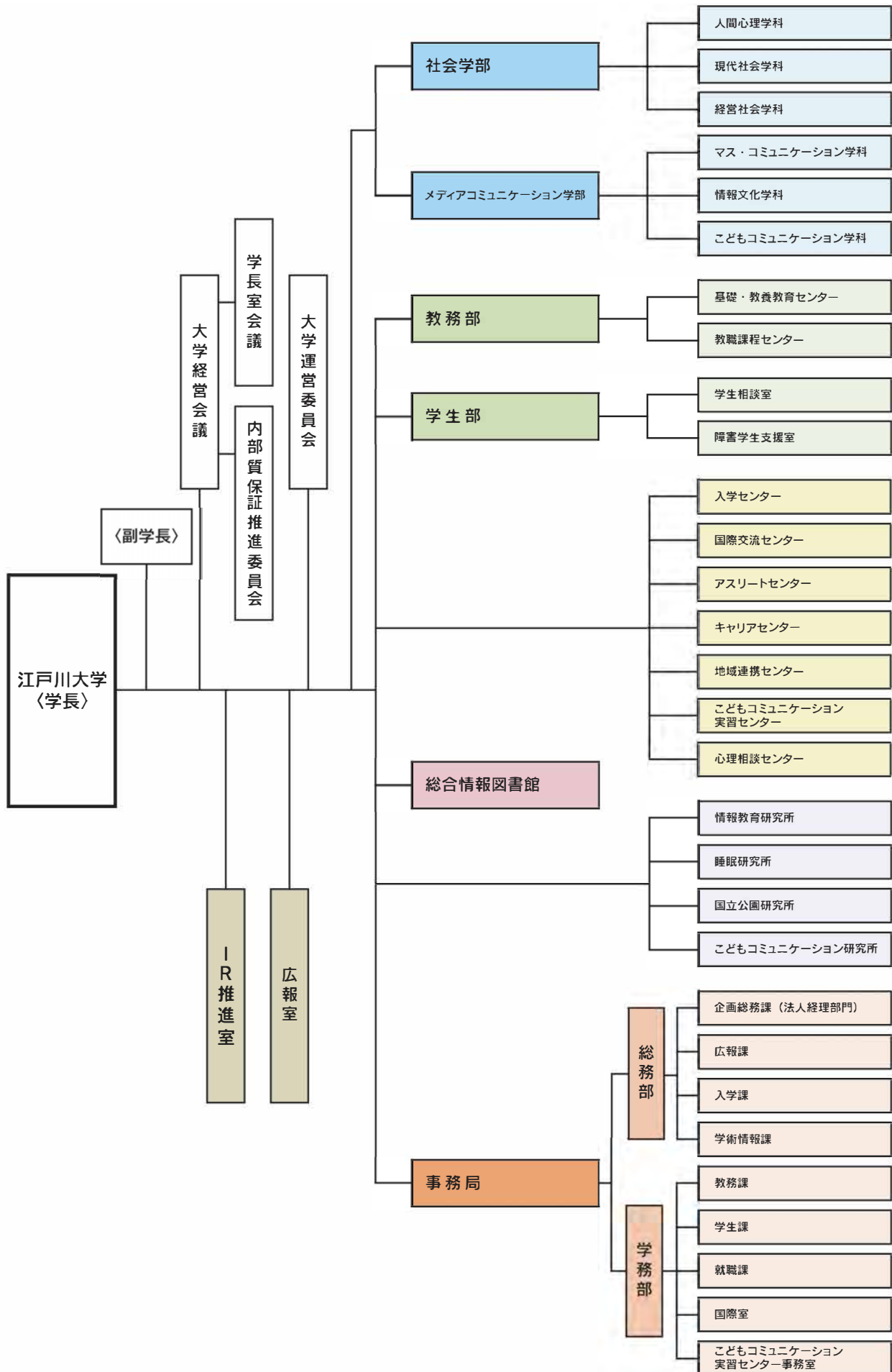


D棟学生ホール

2024年度 科研費交付内定一覧

	開始年度	終了年度	研究種目	部局名	職名	氏名	研究課題名	直接経費	間接経費	経費合計
1	2024	2028	基盤研究(C)	基礎・教養教育センター	講師	今関裕太	アイリッシュ・モダニズムにおける詩と音響メディアの関係	3,400,000	1,020,000	4,420,000
2	2024	2026	基盤研究(C)	メディアコミュニケーション学部	講師	松尾由美	文系大学生を対象とした数学的モデリング能力育成に向けたデータサイエンス教育	2,200,000	660,000	2,860,000
3	2024	2026	基盤研究(C)	メディアコミュニケーション学部	教授	玉田和恵	生成AI時代に求められる情報モラル問題解決力の育成	2,500,000	750,000	3,250,000
4	2024	2025	若手研究	社会学部	講師	石橋美香子	モノの特徴と行為の結びつきが物体の関わりに与える影響についての実験的検討	3,600,000	1,080,000	4,680,000
5	2024	2026	若手研究	メディアコミュニケーション学部	助教	王 令薇	中学生イベントのメディア社会学的研究——見えにくさの可視化に着目して	2,500,000	750,000	3,250,000
6	2024	2026	若手研究	メディアコミュニケーション学部	講師	中島金太郎	中世貿易港「横瀬浦」に関する研究	3,300,000	990,000	4,290,000

2024年度 江戸川大学 教育・研究・事務組織図



2024年度 学内研究助成金配分表

学部

(単位:円)

		研究者名 ○代表者	研究 題 目	計画年数	配分額	備 考	
社 会 学 部	人間心理学科	○ 佐藤俊彦	心拍変動 (HRV) バイオフィードバックおよび自律訓練法における安静時の精神生理学的変化	2年度	684,000	新規	
		○ 西村律子 浅岡章一	睡眠の乱れによる認知機能の変動が幽霊遭遇体験に及ぼす影響Ⅱ ーオンライン実験を用いた検討ー	単年度	695,000	新規	
		○ 野添健太 山本隆一郎	睡眠が連想に焦点を当てた記憶課題の成績に及ぼす影響についての系統的レビューおよびメタ解析	2年度	150,000	新規	
		○ 福田一彦	就寝時の音楽聴取が睡眠に及ぼす影響について	単年度	71,000	新規	
	計 (4件)					1,600,000	
	経営社会学科	○ 伊藤彬	大学男子バスケットボール選手における傷害調査	2年度	10,000	継続 2年目	
		○ 杉山敏啓	金融機関の国内有人店舗数の推移状況に関するデータ整備・分析	単年度	606,000	新規	
○ 周楊華 安田英士		日本企業在外拠点における非技術的 innovation の研究	単年度	645,000	新規		
計 (3件)					1,261,000		
社会学部合計 (7件)					2,861,000		
メディアコミュニケーション学部	メディアコミュニケーション学科	○ 守屋志保 西村律子 浅岡章一	江戸川大学女子バスケットボールチームのブランディングに向けた人間科学的アプローチ ー選手の心理的スキル・睡眠習慣・認知機能に着目してー	単年度	483,000	新規	
		計 (1件)					483,000
メディアコミュニケーション学部合計 (1件)					483,000		

研究所・センター

(単位:円)

		研究者名 ○代表者	研究 題 目	計画年数	配分額	備 考
睡眠研究所	○ 福田一彦 浅岡章一 西村律子 山本隆一郎 野添健太 奥山慎也 原真太郎		大学生における睡眠習慣が大学生活に与える影響 ー縦断調査を用いた検討ー	5年度	400,000	継続 5年目
情報教育研究所	○ 玉田和恵 松尾由美		生成 AI 時代に求められる情報モラル問題解決力の育成 ー Society5.0 時代を生き抜くためにー	2年度	700,000	新規
研究所・センター合計 (2件)					1,100,000	
総合計 (10件)					4,444,000	

教育改革推進経費採択課題

教員名	予算要求額	決定配分額	改革案タイトル	実施予定時期
福島亜理子・ 中原真祐子	965,900	965,900	初年次教育改革のためのチームティーチングの強化と目的の明確化	2024年4月
崎本武志・土屋薫	2,067,960	2,067,960	フィールドワークのためのマルチな実習室・学習室の設置運営	2024年9月

Event 2024年度に予定されているイベント

駒木祭 11月2日(土)、3日(日・祝)

江戸川大学の学園祭は、学生で組織する学園祭実行委員会が中心となり、毎年、学科やゼミの教育研究活動の展示をはじめ、模擬店の出店や様々なイベントを行っています。

研究所主催イベント

第12回情報教育研究会 7月28日(日)
第12回サイエンスセミナー 8月5日(月)
こどもコミュニケーション研究所フォーラム 11月3日(日・祝)
2024年度冬期情報教育研究会 2025年1月17日(金)

※この他のイベントを含め、詳細が決まり次第、各研究所のWebページでご案内します。

江戸川ガールズアワード 11月3日(日・祝)

社会学部経営社会学科のファッション・音楽ビジネスコースでは、「演習・実習」科目での取り組みとして、音楽とファッションの融合を発信するイベント『EDOGAWA GIRLS AWARD』の企画から運営までを実施しています。

15回目となる今回は、日本全国の音楽が好きな高校生で、男女混合バンドまたは女性ソロアーティストを対象とした、「NEXTAGE ARTIST AUDITION」を実施します。

決勝進出者には11月3日(学園祭)に開催される『EDOGAWA GIRLS AWARD』で決勝審査として、オリジナル曲またはコピー曲を生披露していただきます。

電波放送部の学生が「FM ふくろう」にて生放送番組のパーソナリティに!

電波放送部の学生が4月から千葉県八千代市のコミュニティFM「FM ふくろう」にて生放送番組のパーソナリティを務めています。番組名は「きらめきトキメキ教えてラジオ!」。現役大学生が「きらめきもの」「ときめきもの」を探し、リスナーのみなさんにお届けします。

- ◆放送日時：毎月第4水曜日：10時30分～10時59分
※放送内容・時間は予告なく変更となる場合があります。
- ◆アーカイブ放送はふくろうFMのYouTubeチャンネル「きらめきトキメキ教えてラジオ!」の再生リストからお聞きいただけます。
- ◆放送媒体：FMふくろう (FM85.8MHz)、
FMふくろうインターネットサイマル配信
番組への感想・お便りは「kiratoki@296.fm」へ



八千代市コミュニティFM
FMふくろうで生放送!!
八千代市からはFM85.8MHz
インターネットでも同時配信!

メッセージ・リクエストは
kiratoki@296.fm
X(Twitter)からは
#きらトキ296

4.24
10:30 Start!!

江戸川大学電波放送部
お問い合わせ
edodenpa@edogawa-u.ac.jp

フットボールクラブが2024年度千葉県大学サッカー選手権大会で優勝

2024年度千葉県大学サッカー選手権の決勝戦が、5月19日(日)に城西国際大学で行われ、江戸川大学は城西国際大学を1対0で下し、2019年度大会以来5年ぶりとなる優勝を果たしました。部長・監督・スタッフ・選手が一枚岩になり成し遂げた成果でした。今後も、今シーズンの最大目標「昇格」に向けたチャレンジが続きます。



ご寄付のお願い

江戸川大学が学生の学びを支え続けていくためには、より良い教育環境の整備や文化・スポーツ等の課外活動に対する支援が必要となります。皆様の温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



お申し込み、免税措置などの詳細はこちらから

◎編集後記

5月になると駒木キャンパスの木々や芝生が鮮やかな緑になり、晴れた日には青空に緑が映え、ベンチでくつろぐ学生もよく見かけるようになります。そんなくつろぐ学生に交じり、今年もカルガモがキャンパスに来校しました。1羽だったのが2羽に増え(つがいかもしれません)、のんびり水盤を泳ぎ、橋の上で羽を休めていました。

大学公式Instagramでは学生の活動だけでなく、駒木キャンパスで過ごすカルガモの写真も載せていますので、ぜひご覧ください。

江戸川大学学報

2024年6月号 第54号

Vol.23 No.1 2024年6月30日発行

発行 江戸川大学 事務局 総務部広報課
〒270-0198 千葉県流山市駒木 474
TEL.04-7152-9980